

看護学科の先生からのおすすめ図書紹介



新井 信之 先生

(精神看護学概論 コミュニケーション論)

対人コミュニケーション入門：看護のパワーアップにつながる理論と技術	渡部富栄	ライフサポート社	193p
	492.9014/16		
<p>先生からの推薦文</p> <p>コミュニケーションに関する書籍は多数ありますが、理論をしっかりと踏まえた総合的な書籍であると思います。構成のはじめで言葉のやりとりだけではないコミュニケーションの基本を分かり易く説明し、また各章の始めにはモノクロの写真と詩が載っていて、読む者自身の生き方について考えさせてくれる構成になっています。看護学生から新人看護師、更には臨床経験を積んだベテランにも役立つ内容になっています。</p>			
伝え方の魔術：集める・見抜く・表現する	及川幸久	かんき出版	287p
	S0/20495		
<p>先生からの推薦文</p> <p>国際情勢YouTuberである著者が、仕事や毎日の日常における人間関係、SNS、何気ない会話などに役立つ「情報収集」と「伝え方」のスキルが分かり易く説いている。SNSによる情報発信や情報収集はとても便利であるが、トラブルや騙されるリスクを避けるためにも、より一層、情報を適切に集め、事実に基づき読み解き、相手に伝えることが大切である。本書を読むことで得られるという9項目のメリットが示され、また、文字と行間が大きく非常に読み易く、大学生生活と学修に役立つ本である。</p>			

伊神 美早 先生

(基礎看護技術演習)

父と娘の認知症日記：認知症専門医の父・長谷川和夫が教えてくれたこと	長谷川和夫, 南高まり	中央法規出版	174p
	S9/20035		
<p>先生からの推薦文</p> <p>長谷川和夫先生は、1929年愛知県生まれです。現在も使用されている「長谷川式簡易知能評価スケール」を開発されました。自らも認知症になられたことを公表され、「生きている限り生きぬきたい、生かされるのではなく、自分の意志で生きたい」と当事者の立場から認知症の人の想いを発信されています。この本は、先生の日記と娘まりさんのエッセイからなり、日々を豊かに生きるヒントが書かれています。</p>			
看護は私の生き方そのもの	長濱晴子	医学書院	233p
	S4/22654		
キラリ看護, 新訂	川島みどり	医学書院	216p
	498.14/168		
看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング	篠崎恵美子, 藤井徹也	医学書院	134p
	492.9014/5		
私は私のままで生きることにした	キム・スヒョン著；吉川南訳	ワニブックス	287p
	S1/17979		

伊東 春菜 先生

(老年看護学)

博士の愛した数式	小川洋子	新潮社	291p
	S9/7894		
<p>先生からの推薦文</p> <p>第1回本屋大賞を始め数々の賞に輝いた物語です。80分の短期記憶が毎日リセットされてしまう博士とともに家政婦として博士と関わるようになった女性とその息子の3人の日常を描いた話。博士がもつ制約された記憶の中で数式を通してお互いの気持ちを思いやり、信頼し、敬愛していく、とても温かい気持ちになれる本です。看護をしていく上で人とどう向き合い関係性を気づいていくのか考える時のヒントとなうような物語ではないかと思います。相手を理解することの難しさや相手を気遣う精神が大切だということを物語を通して示してくれるのではないのでしょうか。</p>			

大須賀 美智 先生

(小児看護学)

子どもによる子どものための「子どもの権利条約」	小口尚子, 福岡鮎美文	小学館	183p
	J31/2		
<p>先生からの推薦文</p> <p>子どもの権利条約について、日本政府による訳文では、なかなか理解するのが難しいと思います。「この本は、むずかしい条約文を、子どもにもわかるように」と当時中学生の2人が自分たちの言葉で訳しまとめたものです。この本から子どもの権利とはなにか、それを守とはどういうことかを、ぜひ感じ考えてみてください。</p>			
自閉症の僕が跳びはねる理由：会話のできない中学生がつづる内なる心	東田直樹	エスコアール出版部	175p
	378/900		
「小さいのち」を守る：事故、虐待、いじめ…証言から学ぶ予防と対策	朝日新聞取材班	朝日新聞出版	287p
	S4/22584		
私は私らしい障害児の親でいい	児玉真美	ぶどう社	142p
	378/414		
きょうだい：障害のある家族との道のり	白鳥めぐみ, 諏方智広, 本間尚史	中央法規出版	275p
	(品切れのため入手不可)		

河村 諒 先生

(成人慢性期看護援助論)

脳梗塞を生きる：改編『脳梗塞の手記』	菊池新平	東京図書出版	272p
	購入準備中		
先生からの推薦文 脳梗塞を発症した患者さんの手記です。これまで当たり前のようにできていた日常生活が突然できなくなるとはどのような体験であるのかを叙情的に述べています。これまで患者さんからみえる景色について考えたことはありますか？医療従事者からみえる景色とはまるで別世界です。これまで臨地実習に参加してきた学生さんに限らず、これから医療、看護を学ぶ学生さんには是非とも読んでいただきたい1冊です。			
閉じこめられた僕：難病ALSが教えてくれた生きる勇氣	藤元健二	中央公論新社	262p
	購入準備中		
人生を物語る：生成のライフストーリー	やまだようこ編著	ミネルヴァ書房	281p
	140/787		
二次的外傷性ストレス：臨床家、研究者、教育者のためのセルフケアの問題	B.H. スタム編；小西聖子、金田ユリ子訳	誠信書房	311p
	購入準備中		
災害ケースマネジメント◎ガイドブック	津久井進	合同出版	271p
	購入準備中		

岸 あゆみ 先生

(基礎看護学)

看護とケア：心揺り動かされる仕事とは	三井さよ	角川学芸出版、角川グループパブリッシング(発売)	190p
	492.9/171		
先生からの推薦文 この本の著者は、看護師ではなく社会学者です。これまでに著者が出会った看護師たちへのインタビューで、語られた出来事で強く印象に残ったものが取り上げられ、それについて考えたことが書かれています。この本の中では、看護師であれば誰でも抱えるような様々な問題や葛藤が描かれています。それに対して、社会学者である著者が違った観点からその出来事を見て考えることで、新たな意味を見出したり、気づかなかった大切なことに気づかせてくれたりします。そして、看護職は患者さんの生き方とくぶつかりあう専門職であるということを感じさせてくれる一冊だと思います。			
病いの語り：慢性の病いをめぐる臨床人類学	アーサー・クライマン 著/江口重幸ほか訳	誠信書房	123p
	493.1/2		
その幸運は偶然ではないんです！：夢の仕事をつかむ心の練習問題	J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン 著；花田光世ほか訳	ダイヤモンド社	229p
	S1/22585		
安楽死を遂げるまで：the road to euthanasia	宮下洋一	小学館	348p
	490.1/19		
人魚の眠る家	東野圭吾	幻冬舎	469p
	S9/16491		

久保 金弥 先生

(人体構造・人体機能学 I・II、口腔健康管理学)

脳の地図を書き換える：神経科学の冒険	デイヴィッド・イーグル マン著；梶山あゆみ訳	早川書房	426p
	S4/22477		
先生からの推薦文			
<p>ライブワイヤード的な観点から脳の可塑性(自由度)を捉えた書籍である。 例えば、事故などで失った機能を残った脳全体で機能の分担を行う。人の脳は自由度が大きく驚くほど変化するらしい。脳に秘められた可能性を理解することができます。</p>			
図解眠れなくなるほど面白い脳の話	茂木健一郎	日本文芸社	127p
	S4/22475		
あなたの知らない脳：意識は傍観者である	デイヴィッド・イーグル マン著；大田直子訳	早川書房	392p
	S4/22476		
人間は、いちばん変な動物である：世界の見方が変わる生物学講義	日高敏隆	山と溪谷社	275p
	S4/22474		
若い読者に贈る美しい生物学講義：感動する生命のはなし	更科功	ダイヤモンド社	323p
	S4/22473		

佐藤 綾野 先生

(公衆衛生看護)

無名の語り：保健師が「家族」に出会う12の物語	宮本ふみ	医学書院	214p
	S9/20504		
先生からの推薦文			
<p>なんでも屋さんのように便利屋ではない。身近に常にそばにいるわけではないけれど赤の他人ですごく人を大切に想い寄り添いたいと思いつつ働いている。それが保健師だと感じました。困難な場面に直面している家族等、支えが必要な家族への保健師の関わり、そして一人で抱え込まないことの大切さが伝わる一冊です。 保健師自身も、対象者支援にのめりこみ過ぎて視野が狭くならないことも大事、保健師も他者を頼ることも大事です。対象者や家族、保健師だけでなく皆が何かしらのネットワークをもっておくことは、それぞれ自分を守ることにも繋がるものだと感じられます。保健師を目指す学生さんや、保健師って何？と思っている方にもお勧めの一冊です。</p>			
駐在保健婦の時代：1942-1997	木村哲也	医学書院	333p
	498.14/191		
先生からの推薦文			
<p>「駐在保健婦」に関する高知、沖縄、青森を中心とした本。民俗学の著者が記した本とあって、主観もなく史実として読み進められる本です。世の中の疾病構造が感染症蔓延とその撲滅のために奔走していた時代は駐在制度が適していたのだと思うけれど、地域保健法施行の方針で駐在制が廃止となった今の時代にこの制度があったらどうか？保健師の理想的な活動形態かもしれませんが、駐在には少なくない私生活の犠牲が伴うとも思われます。現在の基準で読み進めると、えっ！と思うことも多いかもしれませんが、社会情勢によって保健師に求められる役割の変化と、ブレない心情を感じてもらいたいと思います。</p>			

<p>離島の保健師：狭さつながりをつなぐ</p>	青木さぎ里	青土社	392p
購入準備中			
<p>先生からの推薦文</p> <p>3名の離島で働く保健師を対象に著者が質的研究を行ったものを一般向けの本にまとめたものです。著者は現役の離島保健師として活動されているときに保健師ジャーナル(図書館にも定期購読雑誌としてあります)に連載をもっていました。離島という、よくも悪くも狭すぎるコミュニティは、住むのも働くのも大変だと読みながらすごく感じました。読み進めるにつれ、3名の離島保健師が著者のインタビューを通して自己洞察して成長されているのが話の流れでもわかり、離島保健師側の視点で読むと一緒に成長しているように感じられる本です。</p>			
<p>逝かない身体：ALS的日常を生きる</p>	川口有美子	医学書院	265p
493.6/79			
<p>先生からの推薦文</p> <p>表紙の夕焼けが本当に綺麗な、ALS在宅療養者の在宅介護の記録の本です。記録といっても時系列のものではなく、介護者である娘の立場からの想いや考えが綴られています。ALSの病態として、ざっくりというと身体の自由がきかなくなるけれど、意識や思考はクリアな状態は自分だったら…と、無意識に考えないようにしているというのが正しいのかもしれませんが。考えずに、どうして療養者の方や介護者のことを考えられるのかと、自分の中の倫理的葛藤もあぶりだされる読後感です。学生の皆さんにも、いち家族の介護を知ってどう感じるのかの読書体験をしていただきたいです。また、よく出てくる「見守り」とことばの曖昧さ、医療や福祉の中でのその捉え方の違いについても知るきっかけになる本です。</p>			
<p>驚きの介護民俗学</p>	六車由実	医学書院	233p
購入準備中			
<p>先生からの推薦文</p> <p>介護だけでなく看護も「ケアする人」「ケアされる人」という認識や関わり方が抜けきらない感じはありますが、本来は違うよねと本書を読んで感じました。介護を受ける高齢者もいきなり今の状態ではなく、幼少期からの生活背景があるという、当たり前なことだけど忘れがちな部分かもしれません。私自身も、学生の時から「傾聴が大事」「hear&listenは違う」「非言語的コミュニケーション」と言われてきたけれど、著者の言うように「言語的コミュニケーションは充分か」の問いにはハッとしました。みなさんの日常における「言語的コミュニケーション」「非言語的コミュニケーション」の振り返り、実習ではどうする?と考えるきっかけになると良いなと思います。</p>			
<p>いっしょに考える外国人支援：関わり・つながり・協働する</p>	南野奈津子編著	明石書店	230p
購入準備中			
<p>先生からの推薦文</p> <p>「外国人支援」というとすごく大変なイメージもありますが、考える前にまず「知ること」、そして考えて、アクションだ!と読んで感じます。「なかなか一歩を踏み出せない私たち」と本著のはじめにありますが、自分のことだなと思いました。医療、教育、福祉、DV、難民など、外国人支援に関わるそれぞれの専門家による章立てになっていて、具体的なケース紹介もあり、制度と場面の繋がりや、繋がっていなくて支援から抜けてしまう部分についてもとてもわかりやすく書かれています。街中だけでなく、卒後就職する医療機関や保健機関にも日本で暮らす外国人の方は多くいらっしゃいます。これからの学生生活や実習などでも、関わる人は日本国籍や日本を母語とする人ばかりではないかもしれません。勉強になる1冊だと思います。</p>			
<p>泥だらけのカルテ：家族のもとに遺体を帰しつつ歯科医が見たものは?</p>	土居健郎	講談社	173p
購入準備中			
<p>先生からの推薦文</p> <p>2011年3月11日に発生した、東日本大震災に関する本です。大切な人の死を認めたくないご遺族の気持ちや、「家族の元に帰してあげたい」と願う人たちの思い、地域に根付いた歯科医師だからこそできること、たくさんの様々な立場の方の思いが垣間見える本です。震災から13年経過しても、それぞれの思いは被災者であってもそうでなくても自分も含めて終わりはないと改めて感じます。また、「カルテ」に情報があるからこそ、本人の情報と確認ができたところから、記録に残すことの大切さ、誰がみても同じように意味内容を捉えられるように記す記録の書き方についても思いを馳せてほしいなと思います。</p>			

物語介護保険：いのちの尊厳のための70のドラマ(上)	大熊由紀子	岩波書店	263p
購入準備中			
<p>先生からの推薦文</p> <p>2000年にスタートした介護保険の成立までを福祉先進国のデンマーク等から日本に持ち込み、日本バージョンに合うようにどう検討していったか、というプロセスを記した上下巻の上巻にあたる。一昔前までの国内での介護や療養(といえるかどうかという部分もあるけれど)の実態から、記者視点でのメディア戦略や官公庁での人間模様などリアリティに溢れる描写が多く記されている。「熱意をもって」と好意的に書いてはいるけど、震々関の働き方は異常だと読んでいて感じました。介護保険制度にまつわる本作ですが、労働環境という点でもみてみると違う視点で考えることもできるかもしれません。</p>			
物語介護保険：いのちの尊厳のための70のドラマ(下)	大熊由紀子	岩波書店	293p
購入準備中			
<p>先生からの推薦文</p> <p>上巻に比べて、官公庁や自治体の話が多く出てきます。介護保険制度スタートに向けて、立案する政府側と実施主体の市町村という構図で話が展開されていきます。上下巻通して同じ人が何度も登場し、1つずつの章としては読みやすいですが、全体像を俯瞰してみようと思うと何度も同じ話が出ているような気もしつつ、自分で整理しながら読む必要があるかもしれません。介護保険制度開始から幾度の改正も経て24年、使わずに済む生活が理想なのかもしれませんが、必要な人が必要なタイミングで利用できるよう、利用時はその人本人と家族、地域の生活が守られる制度であってほしいと読みながら感じました。みなさんはどう感じるでしょうか。</p>			
旅のことは：認知症とともによりよく生きるためのヒント	井庭崇, 岡田誠編著	丸善出版	96p
購入準備中			
<p>先生からの推薦文</p> <p>優しいことばで語られる、認知症とともに前向きに暮らしていくためのヒントが詰まっている本です。行動レベルのアクションの内容も多く、認知症に限らず、年齢や性別問わず生活の変化に直面した時にも活用できそうな内容となっています。本著のまえがきに書いてありますが、敢えて「～しましょう」ではなく、自分ごと目線になるようにという書き方も、内に語りかけるような伝え方に仕掛けられていてスツと自分の中に入って来る感じがします。認知症というと、若い世代からすると行動の理解が難しかったりしますが、自分に置き換えて考えやすいという点でも読みやすく、手に取りやすい一冊です。</p>			
痴呆の人の思い、家族の思い	呆け老人をかかえる 家族の会編	中央法規出版	177p
493.7/507			
<p>先生からの推薦文</p> <p>「認知症」に名称や呼称が変わる前のときの本なので、「痴呆」という言葉になっています。介護生活の現在進行形の方や、わからなくなっていく自分に戸惑いながら暮らしている認知症当事者の方の思いが綴られている本。一つ一つのエピソードは1ページにおさまる量ですが、その短い文章に様々な思いや情景が込められています。内容も認知症に関する事実記載というよりも、その時どう思ったか、どう感じたか、振り返って考えるとこういう意味があったのかも等、タイトル通り当事者の方、そのご家族の方の「思い」がたくさん詰まっています。</p>			
介護するからだ	細馬宏通	医学書院	279p
購入準備中			
<p>先生からの推薦文</p> <p>「行為」という複数の行動の組み合わせとしての人の動きではなく、一つ一つの行動の意味について対象者の属性から紐解いていく内容です。対象は施設への入居者だけでなく、関わる支援者や参与観察者としての著者や著者のもとで学ぶ大学生も含まれています。普段、意識せずに行っている何気ない一つ一つの行動の意味を推測してアセスメントすることの大切さ、それらが具体的な、そして効果的な支援に繋がっているという「関わり」の大切さも感じられる本です。</p>			

ケアへのまなざし	神谷美恵子	みすず書房	263p
	080/143/24		
先生からの推薦文			
<p>精神科医の神谷先生のハンセン氏病の療養所での体験を中心とした心理や哲学など分野横断的な内容となっています。難しい、けれど読後は何だか救われた気にもなりホッとした感じにもなります。イッキ読みというよりは少しずつ理解を深めていくように読むのがお勧めです。看護学の分野でも「経験知」と「暗黙知」など言われますが、この本を読んで、それら2つを繋げることの大切さも感じられます。また、作品内での対談で、引用が多いことに対して、神谷先生自身は「自分の考え方と他の人の考え方を確かめ合いたいわけですから」と、主張ばかりでなく、鵜呑みだけでなく、他者の意見を尊重しご自分の意見を再考されています。自己や相手主体と、どちらかの見方だけでなく、様々な角度から物事を捉え、考えるという大切な視点についても気づくことができる本です。</p>			

佐藤 睦美 先生

(母性看護学)

いいんだよ, 昨日までのこと全部。 : 心が軽くなる31のアンサー	田中満矢	いのちのことは社	128p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
<p>10代の死因一位が自死であるこの社会で、未来を担う若者たちに希望をもってほしい、と願い、これまで2,000人以上の若者に関わり、悩みに耳を傾けてきた「ドクター牧師」が、今伝えたい心がフッと軽くなる31の言葉がこぼれ出ています。「あなたが生きていることに『ありがとう』と言いたい」、そのような思いがあふれている図書です。牧師が著者で聖書の言葉にからめているが、非常に読みやすく、途中からでも入っていくことができます。「消えたい」、「生きづらい」、「毎日苦しい」、そのような思いがよぎる時に手に取ってほしい一冊です。</p>			
容疑者Xの献身	東野圭吾	文藝春秋	394p
	S9/21408		
大人の語彙カノート : 誰からも「できる!」と思われる	齋藤孝	SBクリエイティブ	239p
	S8/16484		
なぜ、他人のゴミを拾ってしまうのか?	丸屋真也	リヨン社 : 二見書房 (発売)	276p
	購入準備中		
恋ちゃんはじめての看取り : おおばあちゃんの死と向きあう	國森康弘写真・文	農山漁村文化協会	32p
	J49/18/1		

城川 絵理子 先生

(地域・在宅看護援助論)

まとめないACP : 整わない現場、予測しきれない死	宮子あずさ	医学書院	160p
	490.14/32		
先生からの推薦文			
<p>アドバンス・ケア・プランニング(ACP)とは、人生の最終段階で受ける医療やケアなどについて、患者さんと家族などの身近な人、医療従事者などが事前に繰り返し話し合う取り組みのことです。その人の人生の最終段階がより良いものであるために、ACPの普及活動が行われ、医療従事者も積極的に取り組んでいます。一方で、ACPを国や医療従事者主導で行うことに、私は時々怖さを感じます。自分たちが患者さんに延命や治療を諦めることを推していないか、大事な決心を急かしていないか、という怖さです。この著者は、私が臨床で感じていたモヤモヤについて議論しています。ガイドラインや教科書通りにはすすめられない実際の現場や、患者さんやご家族のゆれる心にどう寄り添っていくべきか、この本を参考に考えてもらえるとうれしいです。</p>			

誰かのためなら人はがんばれる：国際自立支援の現場でみつけた生き方	木山啓子	かんき出版	221p
	購入準備中		
世界で生きる力：自分を本当にグローバル化する4つのステップ	著： 松本裕司	英治出版	314p
	購入準備中		
ポストコロナ期を生きるきみたちへ	内田樹編/斎藤幸平 [ほか] 著	晶文社	306p
	304/186		
客観性の落とし穴	村上靖彦	筑摩書房	191p
	購入準備中		

鈴木 雪乃 先生

(精神看護援助論)

こころのナース夜野さん〈1〉～〈4〉	水谷緑	小学館	156p
	S4/21487-1～4		
先生からの推薦文			
<p>これはマンガです。精神科病院に入院する患者さんに寄り添う精神科看護師、夜野さんの物語です。統合失調症、境界性パーソナリティ障害、アルコール依存症・・・様々な精神疾患を抱える患者さんと向き合う、夜野さんの素直な気持ちや葛藤、周りの先輩看護師の反応がとてもリアルに描かれています。私自身が、精神科病棟で看護師として働いていた時のことを思い出しました。精神科病棟ってどんなところなんだろう？精神科看護師って何をやるの？と興味を持つすべての方に、読んでほしいシリーズです。</p>			
あん	ドリアン助川	ポプラ社	259p
	S9/19909		
統合失調症がやってきた	松本ハウス	幻冬舎	243p
	S9/21483		
相方は、統合失調症	松本ハウス	幻冬舎	276p
	S9/21484		
おとずれナース：精神科訪問看護とこころの記録	のまり	ぶんか社	155p
	S4/21489		

土屋 裕美 先生

(成人看護援助論Ⅱ 看護過程)

大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる! 4訂版	世界思想社編集部	世界思想社	127p
	377.15/119		
先生からの推薦文			
<p>高校生から大学生になり、授業のノートの取り方は、先生の板書を書き写すスタイルから、自ら聴いた講義の内容についてポイントをまとめてノートを作りあげるスタイルに変わります。また、講義の前後には予習・復習が必要となり、講義・ゼミ・実習では、レポートの提出や発表をする機会があります。</p> <p>この図書は、ノートの取り方、レポートの書き方、大学図書館の使い方や資料の探し方、ゼミ発表の仕方など、大学4年間の基本的な学習方法やマナーがイラスト付きで、非常にわかりやすくまとまっています。</p> <p>皆さんの大学生生活をスムーズに送るための手助けになると思い、本書を推薦致します。</p>			
看護学生のための実習の前に読む本	田中美穂, 蜂ヶ崎令子	医学書院	123p
	492.9/122		
看護倫理：見ているものが違うから起こること	吉田みつ子	医学書院	156p
	492.901/51		
看護学生してはいけないケースファイル：臨地実習禁忌集	下司映一, 菅原スミ, 浅川和美	丸善出版	116p
	492.907/19		
看護研究はじめの一步	岡本和士編集/岡本和士, 長谷部佳子執筆	医学書院	157p
	492.9/83		

富澤 栄子 先生

(老年看護学概論 老年看護援助論 認知症看護援助論)

キラリ看護, 新訂	川島みどり	医学書院	216p
	498.14/168		
先生からの推薦文			
<p>看護の魅力はどこにあるのか？これから看護師を目指そうとしている高校生、看護を学んでいる看護学生、入職間もない看護師の皆さんに是非とも手に取っていただきたい書籍です。看護師を50年以上続けてきた大先輩の川島みどり先生が語る「看護の魅力」を届けたいと思い、本書を推薦させていただきます。</p>			
本当の看護へ：“看護ナラティブ(物語)”から学ぶ臨床の知と技	内山孝子	看護の科学新社	223p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
<p>全編が患者とともに創った物語(ナラティブ)で構成されている本書は、看護師がなすべきことは何か、本当の看護とは何か？著者は、本書を通して患者に真摯に向き合う看護師の軌跡を語っています。これから実習を経験する、また実習を終えた看護学生の皆さんに読んでいただき、看護実践を探究する手掛かりにしてほしい書籍です。</p>			
看護の力	川島みどり	岩波書店	206p
	080/132/1391		

廃用身	久坂部羊	幻冬舎	402p
	購入準備中		
解夏	さだまさし	幻冬舎	499p
	購入準備中		

中神 克之 先生

(成人看護学概論、看護学研究方法論など)

スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニガル著 ：神崎朗子訳	大和書房	342p
	S1/7619		
<p>先生からの推薦文</p> <p>意志の弱い人は必見です。あなたは意志が強いですか？ダメだと分かっている、ついつい夜更かしや暴飲暴食をしてしまいませんか？誘惑の多い現代で、誘惑に強くなるにはどうしたら良いのかと悩む人は、この本を読んでみましょう。多くの研究データから、科学的に私たちの意志力を鍛えるヒントを教えてください。</p>			
Lean in (リーン・イン)：女性、仕事、リーダーへの意欲	シェリル・サンドバーグ著 ：村井章子訳	日本経済新聞出版社	301p
	S3/8358		
<p>先生からの推薦文</p> <p>著者はあの有名なFacebookのCOOでした。彼女のキャリアは輝かしく、成功を手に入れました。アメリカは、仕事と家庭が両立しやすいような社会システムになっていると思いませんか。しかし、この本を読むと、仕事と家庭の両立がいかにも大変なものであるかが分かります。皆さんもライフステージにおいて、仕事と家庭の両立を迫られることがあるかもしれません。この本は、皆さんのキャリア形成の参考になると思います。</p>			
自閉症の僕が跳びはねる理由	東田直樹	KADOKAWA	190p
	S3/22653		
<p>先生からの推薦文</p> <p>ASD(自閉スペクトラム症、アスペルガー症候群)の人は約100人に1人いると報告されています。自閉症の方は、表情や視線、身振り等から相手の考えを読み取る非言語的なコミュニケーション・スキルや、感情の共有や対人関係の構築に困難を抱えることがあります。また、独特の興味や強い関心を持ち、同じ行動を繰り返すやルーティン化された行動を好むことがあります。さらに、光や音などの刺激に対して過敏な反応を示すことがあります。自身が自閉症である著者が、このような行動を取る理由や感覚を分かりやすく説明してくれています。ぜひ読んで下さい。</p>			
やり抜く力：人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける	アンジェラ・ダックワース著 ：神崎朗子訳	ダイヤモンド社	374p
	S1/13089		
<p>先生からの推薦文</p> <p>成功する人は、どんな人なのでしょう。一般的には、頭がよく、才能豊かな人だと思いますよね。でも必ずしもそうではないことが分かってきました。人が成功を収めるためには、才能よりもグリット(=やり抜く力)が大切なのです。やり抜く力には、情熱と粘り強さが大切です。最新の研究テーマを、分かりやすく説明してくれています。自分には才能がない・・・と落ち込んでいるあなたに、ぜひ読んでもらいたいです。</p>			
ヘルス・コミュニケーション：これからの医療者の必須技術、改訂版	ピーター・G. ノートハウス、ローレル・L. ノートハウス著 ：萩原明人訳	九州大学出版会	342p
	(絶版のため入手不可)		
<p>先生からの推薦文</p> <p>皆さん、コミュニケーションで悩んだことはありませんか。「なぜ自分の気持を上手に伝えられないのであろうか」や「どうしたら皆と仲良くやれるのだろうか」など、悩むことは多いと思います。この本は、患者さんや他の医療職者と、良好なコミュニケーションを築いていくための重要な理論について書かれています。理論というと難しいと感じるかもしれませんが、会話場面や例を多く用いて、分かりやすく書かれています。コミュニケーションを理論的に学びたい人にお勧めです。</p>			

橋本 侑美 先生

(小児看護学)

アファンタジア：イメージのない世界で生きる	アラン・ケンドル著；高橋純一，行場次朗共訳	北大路書房	251p
	141/658		
先生からの推薦文			
<p>「赤いリンゴ」を思い浮かべようとしても暗闇が広がる…。そのような経験をしたことがありますか？目の前にないものを心の中でイメージできない一方、実際の視覚機能には問題がないアファンタジアの方々の持つ世界。様々な特性を持つ個人のつながりの中で、人は生きています。人は誰でも、凸凹な部分があります。その凸凹をお互いが理解しあう、補うことで、社会の中での生きづらさが減るのではないかと、そんなことを考えさせられた1冊です。この本の中には、様々な当事者の体験や苦悩が描かれています。「分からない世界を理解しようとする心」、そんなことに気づいていただけると嬉しい1冊です。</p>			
発達障害の子どもの心と行動がわかる本：イラスト図解	田中康雄監修	西東社	223p
	493.9/877		
小児科(病気がみえる；vol. 15)	医療情報科学研究会編集	メディックメディア	715p
	492/725/15-1		
よくわかる看護研究論文のクリティーク：研究手法別のチェックシートで学ぶ 2版	牧本清子，山川みやえ編著	日本看護協会出版会	341p
	492.907/92		
小児看護と看護倫理：日常的な臨床場面での倫理的看護実践	松岡真里編集	へるす出版	214p
	492.925/19		

林 由利江 先生

(フィジカルアセスメント 基礎看護技術演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ)

大地(一)～(四)	パール・バック [著] / 新居格訳 / 中野好夫補訳	新潮社	1: 490p 2: 463p 3: 469p 4: 389p
	S9/18277 -18280		
先生からの推薦文			
<p>19世紀後半から20世紀初頭の激動の中国で、三世代に亘り、命がけて道を開く人々のドラマです。わずかな土地を大地主の黄(ホワン)家から借りて耕す小作農の王龍(ワンロン)は、黄家の奴隷である阿蘭(アーラン)を嫁にもらうことになりました。美しくはないが非常に働き者の妻を娶った王龍は、子宝に恵まれ、黄家の土地を買うまでに運が上向き始めます。この作品で、パールバックは、ノーベル文学賞、ピューリッツァー賞を受賞した名作です。私は、この小説を高校生の時に読み大きな衝撃を受けました。読む毎に大地に根ざして生きる人々の人生を描く感動の長編です。</p>			
医療安全ワークブック, 第4版	川村治子	医学書院	244p
	S4/17094		
先生からの推薦文			
<p>この本は、看護学生の皆さんが講義や演習、臨地実習などでも活用できる内容です。また、看護師として働き始めたときにも大変に役立つ本です。医療事故防止のために、起こりうる危険性を知ることが重要です。本書は、臨地実習や医療現場で起こりうることを医療に携わる者として、必ず知っておくべき内容をイラストや事例によりわかりやすく説明されています。医療安全に関する必要な知識を楽しく学んでいきましょう。</p>			
看護事故の舞台裏：22事例から徹底的に学ぼう	長野展久	医学書院	228p
	498.12/49		

看護の力	川嶋みどり	岩波書店	206p
	080/132/1391		
これだけは身に付けたい患者安全のためのノンテクニカルスキル超入門	相馬孝博	メディカ出版	111p
	498.16/29		

坂 恒彦 先生

(老年看護援助論)

看護学生のためのよくわかる大学での学び方, 第2版	梶谷佳子, 河原宣子, 堀妙子編集	金芳堂	220p
	492.907/55		
先生からの推薦文			
この書籍は大学での学修方法やレポート作成の基本、またプレゼンテーション方法など大学生に必要な基本的学修スキルについて書かれています。一度、この本を手にとってみたらどうでしょうか。きっとこの本は皆さんの学びをサポートしてくれると思います、本書を推薦させていただきます。			
看護の力	川嶋みどり	岩波書店	206p
	080/132/1391		
現代看護理論：一人ひとりの看護理論のために	西村ユミ, 山川みやえ 編	新曜社	272p
	492.901/29		

松田 優子 先生

(在宅看護概論、在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ)

コミュニティナース：まちを元気にする“おせっかい”焼きの看護師	矢田明子	木楽舎	263p
	492.99/33		
先生からの推薦文			
看護師といえば、病院の中で働くイメージが強いと思いますが、コミュニティナースという新しい働きかた・生きかたが、全国各地で始まっています。コミュニティナースは、地域の中での見守りや巡回など、さまざまな活動を通して地域の人たちのそばで関係性を深め、安心を届けることで、健康的なまちづくりに貢献する看護師です。この活動をたった一人で始めた女性と、全国で広がるコミュニティナースたちの取り組みが紹介されています。コミュニティナースとは、在りかたであり、コンセプト、生き方も表現されています。大変読みやすく、看護の場の多様性と、地域での看護をライフワークとする「生きかた」の視野も広げてくれる一冊だと思い、皆さんにお薦めします。			
在宅無限大：訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院	253p
	492.993/65		
在宅医療カレッジ：地域共生社会を支える多職種の学び21講	佐々木淳編集	医学書院	255p
	498/2113		
記憶する体	伊藤亜紗	春秋社	277p
	369.27/127		
「脳コワさん」支援ガイド	鈴木大介	医学書院	212p
	493.73/179		
健康禍：人間的医学の終焉と強制的健康主義の台頭	パトル・シュクラバーネ ク著；大脇幸志郎訳	生活の医療	241p
	498/2116		

松田 麗子 先生

(成人看護援助論Ⅱ(急性期) 看護過程)

感情と看護：人とのかかわりを職業とすることの意味	武井麻子	医学書院	277p
	498.14/170		
<p>先生からの推薦文</p> <p>この本は「人をケアする仕事としての看護」についての現象が「感情」という視点から詳細に描かれています。私はいつもこの本を読むと、臨床現場に居た頃の体験が蘇ってきて、どうしてあの時、あんな風に思っていたのだろうかという問いに意味を見出すことができ、くすぶった気持ちを一気に解消することができます。これから看護という仕事を目指す人、看護という仕事に慣れてきた人、看護という仕事に疲れてきた人だけでなく、看護に関わらない人にも読みやすく、興味のわく本だと思います。</p>			
わたしが看護師だったころ：命の声に耳を傾けた20年	クリスティー・ワトスン 田中文訳	早川書房	358p
	S4/17531		
エキスパートナースとの対話：ベナー看護論・ナラティブス・看護倫理	パトリシア・ベナー編著 /早野真佐子訳	照林社	295p
	492.901/18		
「甘え」の構造	土居健郎	弘文堂	318p
	146/700		
語りかける身体：看護ケアの現象学	西村ユミ	講談社	283p
	S4/16322		

箭野 育子 先生

(看護倫理・生命倫理 成人看護学概論)

困ってるひと	大野更紗	ポプラ社	313p
	S4/19064		
<p>先生からの推薦文</p> <p>ある日突然難病を発症した大学院生女子のエッセイ。あなたならどうしますか？自分自身を見つめる機会を与えてくれる一冊です。看護職を目指す人はもちろん、同年代の皆さんに読んでほしいと思います。</p>			
でもやっぱり歩きたい：直子の車椅子奮戦記	滝野澤直子	医学書院	223p
	購入準備中		
相手も自分も大切にできるコミュニケーション+社会学	吉井奈々	晃洋書房	160p
	購入準備中		
ナースの働きかたハッピーガイド：仕事もお金も子育ても思うがまま	Smart nurse Books編集室	メディカ出版	119p
	購入準備中		
命は誰のものか 増補改訂版	香川知晶	ディスカヴァー・トゥエンティワン	407p
	購入準備中		

山本 駿 先生

(小児看護学)

老年看護学/小児看護学, 第8版	医療情報科学研究所	メディックメディア	423p
	(請求記号なし)		
<p>先生からの推薦文</p> <p>学生向けに執筆されており、分かりやすくイラストや過去の国家試験の問題もあります。そのため、文章ばかりの本が苦手な方は最初の1冊として手に取りやすい本だと思います。 医療制度の変更に伴い、本も定期的に更新されているため、授業後の復習や実習前の予習、国家試験に向けての自己学習に役立ちます。(本書は2019年発行のため現在と異なる場合があります) 私も看護学生の時(実習期間中、国家試験前)によく読んでいました。</p>			
18トリソミーの子どもたち：出会えた奇跡をありがとう	Team 18	水曜社	350p
	S4/19059		
死ぬ瞬間 死とその過程について	エリザベス・キューブラー・ロス; 鈴木晶訳	中央公論新社	468p
	S4/17435		
探偵ガリレオ	東野圭吾	文藝春秋	330p
	S9/19067		
推理小説	秦建日子	河出書房新社	317p
	S9/19066		

渡邊 実香 先生

(母性看護援助論)

脳を傷つけない子育て：マンガですっきりわかる	友田明美	河出書房新社	158p
	S3/22638		
<p>先生からの推薦文</p> <p>小児精神科医の医師による、幼少期の体験と脳への影響を科学的な研究結果をもとにした書籍です。幼少期の体験が脳に変化をもたらすことを、脳の大まかな解剖と役割からその変化についてわかりやすく解説してあります。発達段階に応じた子どもの「気になるふるまい」への対応もイラストで示されています。内容は奥深いものですが、読みやすい内容です。医療系の学生さんほどより、子どもにかかわる方に読んでいただき、子どもへのかかわり方が重要だということを理解していただけたらと思います。</p>			
〈老い〉という贈り物：ドクター井口の生活と意見	井口昭久	風媒社	179p
	S4/22589		
許す力 (大人の流儀：4)	伊集院静	講談社	189p
	S9/9549		
君たちはどう生きるか 〈読書感想文コンクール課題図書〉	吉野源三郎	マガジンハウス	318p
	S1/15462		
僕らの未来が変わるお金と生き方の教室：君が君らしく生きるために伝えておきたいこと	池上彰監修	Gakken	311p
	S3/22591		